



EVRI

教育ビジョン研究センター

ISSN-L(PRINT): 2435-8134 ISSN(ONLINE): 2435-8037

EVRI研究プロジェクト叢書 Vol. 15

Bulletin of the EVRI Research Project (Vol. 15)

2021年度東広島市広域交流型 オンライン地域学習

—2022年2月実践「もしも東広島に『大学』
がなかったら？」—



目次 CONTENTS

1. プロジェクト全体計画 03

2. 実施要領 07

3. 資料 13

板書計画
ワークシート
資料

4. 実施報告 21

5. 児童用アンケートの結果 25

自由記述の分析
量的データの単純集計

6. 担当者・協力者一覧 37

1. プロジェクト全体計画

はじめに

本叢書は、2021年度に広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)と東広島市教育委員会(学校教育部情報教育推進室)の「協働」で実施された「広域交流型オンライン社会科地域学習」の成果を、月別に報告するものである。

詳細は、EVRIのホームページの実施記録に譲ることとして、ここでは「協働」の中身について紹介し、本プロジェクトの意義を指摘したい。

第1に、カリキュラムづくりの協働である。年間計画や毎月のテーマについてはEVRI側で原案を提案したが、最終的な実施計画は、毎月定期的で開催される双方の協議を踏まえて決定された。協議の間では、実施計画書案に基づいて各学級の教師や子どもの動きをシミュレートしたり、各月の研究課題を決めたりして(例えば、T1と子どもと直接対話しよう、学級単位の活動を充実させよう、学級相互の対話を促進しよう)、細部にわたる授業計画の検討と漸進的な授業改善が行われた。

第2に、教師教育の協働である。授業の1週間前には、参加校の教員を対象に教材解釈や授業展開についてオンラインでのガイダンスを実施した。画面上にはEVRIの草原(T1)と市教委の指導主事がスタジオのテーブルに並んで出演し、双方が掛け合いをしながら趣旨説明や質疑応答を行った。あわせて事前のテクニカルな支援を行った。

第3に、学校支援の協働である。授業には、市教委が雇用する技術支援員と、広島大学の大学院生・学部生及びEVRIのスタッフが外向き、授業の運営を支援した。EVRIは必要に応じて教材(写真や統計、ワークシートなど)や機材を提供するとともに、オンラインでの学習環境整備を現場で支援した。

第4に、授業評価の協働である。授業の終了後には、市教委は参加校の管理職や担当教員に、また技術支援員に聞き取りを行い、成果と課題を集約した。EVRIもまた同様に派遣学生から聞き取りを行うとともに、参加校の児童には質問紙調査を行い、結果を双方で共有した。このようにして蓄積されたデータは、次月の実践に活かされた。

このような「協働」が組織的に行われたことが、本プロジェクトの成果と考えている。

読者に注目してほしいのは、本叢書に所収された毎月の記録から見えてくる取組の変化である。実施計画書のフォーマットや提供される教材の量と質は、学校現場の要請や実施の成果を受けて、段階的に変化している。授業中の映像は、ライブ中継の単独から録画との併用へと変わった。中継先は、市内から市外へ、そして世界へと拡大した。T1が授業を行う場所は、中継先のフィールドから大学のスタジオへ、そして参加校の教室へと移動した。これらの変化が意味することの解明は今後の研究に委ねたいが、本叢書はこれらの点を考える基礎的資料を提供していると思われる。

2021年度の成果とその分析は、本叢書以外にも以下の文献に掲載されている。参照していただきたい。

- ・草原和博「越境的対話による教科教育の教室空間の変容－社会科を例に－」『中国四国教育学会第73回大会シンポジウム成果報告書・資料集』日本教科教育学会四国地区・中国地区教育学会, 2021年, pp.13-20。
- ・宇ノ木啓太『オンライン学習を導入した社会科地域学習の変革－理解主義の課題の克服を目指して－』広島大学大学院人間社会科学研究科修士論文, 2022年。
- ・草原和博「学びの民主化ツールを活用して地域学習を変革する」『社会科教育』明治図書, 2022年3月号, pp.10-13。
- ・草原和博「越境的対話による教科教育の教室空間の変容－社会科を事例に－」中国四国教育学会『教育学研究ジャーナル』第27号, 2022年, pp.47-52。

なお、本実践にあたっては、市教委や参加校の先生方、中継先の市役所・企業、地域住民の皆様など、多くの方々のご協力をいただいた。広島大学の学生や EVRI のスタッフには、毎月の実施に献身的なご助力をいただいた。広島大学大学院人間社会科学研究科からは、「令和3年度研究科裁量経費・東広島市連携・広域交流型オンライン地域学習支援事業」の補助金をいただいた。初年次でこれだけの成果が得られたのは、上述の関係機関のご支援の賜物である。ここに記して、あらためて御礼を申し上げます。

私自身は、この1年、90分の生放送のテレビ番組を毎月定期的に制作している感覚を覚えた。番組を作ることの難しさと喜びを、そしてチームワークの大切さを実感した。この経験を、今後の教育・研究に活かしていきたい。

2022年3月31日

広島大学教育ビジョン研究センター・センター長
人間社会科学研究科・教授

草原和博

◆ プロジェクトの趣旨

本書は、広島大学教育ビジョン研究センター(以下、EVRI)が、東広島市教育委員会と連携して行う、市内複数の小学校をオンラインで結んだ広域交流型オンライン社会科地域学習の実践とその成果を報告するシリーズ(分冊)の一部である。

EVRI(センター長:草原和博)は 2021 年度から、東広島市教育委員会と連携して、市内複数の小学校をオンラインで結んだ広域交流型オンライン社会科地域学習を開始した。実践を通して、[GIGA スクール構想](#)の推進によって実現した子どもたちの「1人1台」端末と学校の ICT 環境を活用して、市内各地からの中継を交えながら、東広島市の地理・歴史・政治・経済・文化などについて対話的・双方向的に学ぶことを意図した。さらに、この学びを広島大学の教員と大学院生がコーディネートすることで、実践の円滑な運営を支援しつつ、小学校教員が ICT を活用したオンライン授業を体験し、実践的な知見を獲得することができるよう配慮した。

2021 年度は、2021 年 6 月の試行に基づいて、毎月 1 回 2 時間、テーマを決めて授業を実施した。この企画が実現することで、小規模校と大規模校の子どもが、年間を通して、各地域のようすを比較したり交流したりしながら学びを深められることを意図した。なお、プロジェクトの実施にあたっては、参考コンテンツとして、EVRI が東広島市立図書館の依頼を受けて開発した「[東広島市地域学習用デジタルコンテンツ\(通称「のん太の学び場」\)](#)」を活用した。

[プロジェクト紹介ページはこちら](#)
(右の QR コードからもアクセス可能)

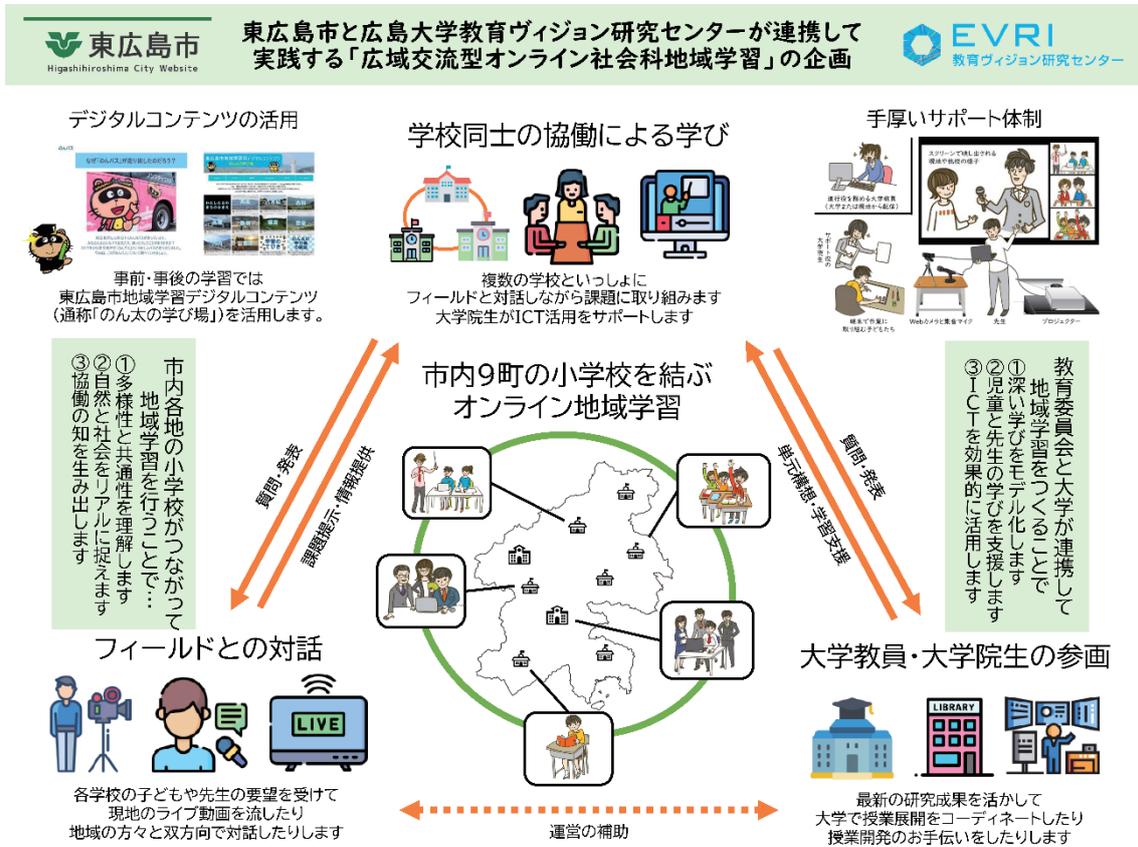


◆ プロジェクトの目的

EVRI が開発した「のん太の学び場」(東広島市地域学習用デジタルコンテンツ)と、東広島市教育委員会作成の小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン社会科地域学習の実施を通して、児童の主体的・対話的で深い学びを創造する。主な目的と実施内容は以下の 4 点である。

- 「東広島市内の小学校」と「学習対象となる地域等」と「広島大学」がオンラインでつながり、遠隔(オンライン)で授業を実施する。
- 遠隔授業の全体進行は、広島大学の担当者が行う。各教室での指導は、各学級の担任等が行う。
- 遠隔授業では、児童が自分のタブレットから参加できる機会を設ける。
- 授業時は、参加校に技術的なサポート要員(大学院生等)を派遣し、授業準備、授業支援、後片付け等を行う。

◆ プロジェクトの実施体制



◆ 実施スケジュール

対象	実施日	単元名
第4学年	2021年6月18日	ピンク色のバスのヒミツをさがれ！仲間をさがせ！ 「バスを比べよう(1)ーピンクのバスのひみつー」
第4学年	2021年6月25日	ピンク色のバスのヒミツをさがれ！仲間をさがせ！ 「バスを比べよう(2)ー私たちの町のバスのひみつー」
第3学年	2021年7月15日	「スーパーと直売所、どこが違う？どこが同じ？」
第4学年	2021年9月15日	「さい書から身を守るーさい書でケンなところ、さい書のサインをさがそう！ー」
第3学年	2021年10月20日	「高屋に新しい消防署ができるらしいよ・・・なぜ？」
第4学年	2021年11月17日	「伝とう」って変わっていいの？私たちのまちの伝とうと未来を予想しよう」
第3学年	2021年12月15日	「駅からみるわたしたちの市のあゆみ」
第4学年	2022年1月19日	「外国から来た人にとって東広島市はくらしやすいか？」
第3学年	2022年2月9日	「もしも東広島に大学がなかったら？」
第4学年	2022年3月9日	『わたしたちの東広島市』の表紙にぴったりな写真を選ぼう」

2. 実施要領

東広島市・広島大学教育ビジョン研究センター連携 「広域交流型オンライン社会科地域学習」2022年2月実施要項

1. 目的

広島大学教育ビジョン研究センターが開発した「のん太の学び場」(東広島市地域学習用デジタルコンテンツ)と東広島市教育委員会作成の小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン社会科地域学習の実施を通して、児童の主体的、対話的で深い学びを創造する。

2. 実施内容

- 市内の小学校、学習対象となる地域・施設と広島大学がオンラインでつながって、遠隔授業を行う。
- 遠隔授業の全体進行は、大学の担当者(T1)が行う。各教室での指導は、各学級の担任等(T2)が行う。
- 可能な範囲で、参加校には大学より技術的なサポート要員(T3)を派遣し、授業準備、授業運営支援、ICTの活用支援等を行う。
- 遠隔授業では、児童が自分のタブレットから参加できる機会を設ける。

3. 授業の日時および参加予定校

- 2022年2月9日(水)3時間目:10:25~11:10, 4時間目:11:15~12:00
- 東広島市内小学校校の3年生(5校7学級, 179名)
古川(1), 高屋東(1), 高美が丘(3), 福富(1), 入野(1)

4. 単元名および目標

- 単元名 「もしも東広島に「大学」がなかったら？」
- オンライン地域学習の単元目標

【知識・技能】 東広島市内の大学の位置と名称を地図から読み取ることができる。東広島市内に大学ができた時期を年表から読み取ることができる。大学ができる前と後の土地利用の変化を写真から読み取ることができる。

【思考・判断・表現】 (第1時) 東広島市に大学が集積している理由を、学園都市の形成の視点から説明できる

(第2時) 大学の立地が、地域の人口増加と①交通・流通施設の整備、②居住・生活環境の開発、③工業・研究施設の立地、④商業・文教施設の拡充などに与えてきた「直接的」「間接的」な影響を説明できる。

【学びに向かう力】 東広島市が学園都市になるときの今日の状態を、根拠に基づいて想像し、表現できる。

【ICT】 タブレットを操作して自分の判断を発信できる。オンライン学習に参加して、自分の考えを教室のなかで、また他校に向けて発表できる。

<ul style="list-style-type: none"> ・赤色：タブレットの活用場面 ・黄色：各学級メインの活動場面 ・青色：中継場面 <ul style="list-style-type: none"> ・教室の基本操作：手を挙げる、ジャムボードやスプレッドシートに入力する、発表時のミュート解除
--

○ 本時の目標

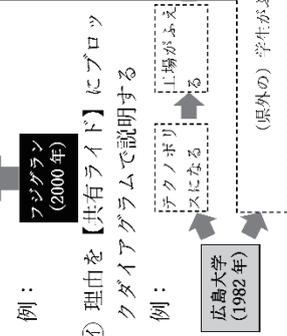
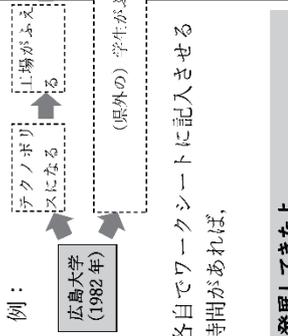
- ・ 1/2時： 東広島市にある大学の名前や場所を知るとともに、大学が立地したことの影響や理由を予想できる。
- ・ 2/2時： 「もしも…」という仮説的推論を働かせて、学園都市として東広島市が発展してきたことの意義や是非を表現できる。

5. 授業展開

T1 (草原)の動き	予想される児童の反応	T2 (学級担任)の動き	ホスト(広大)の動き
<p>【第1時】大学のまち東広島</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生とゲスト、レポーターの紹介 <p><導入:大学って></p> <p>Q1 大学ってどんなところ？ (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小学校や中学校と大学はどこが違うのかな ② ゲストの熊原先生は、大学でどんな仕事をしているのかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は「入学」に注目して、「市の移り変わり」を学んでいくぞ ・高校の後に、4年間行くんだね ・大学は、知識を「教える」だけでなく（自然地理学の授業）、調査・観察したり実験したりして知識を「(新)発見する」ところなんだ(熊本やネパールの地震研究) ・大学は知識を「発見する」だけでなく、それを社会に「役立て」るところなんだ（プラタモリ、水害碑） ・大学は県内に21もあるのかあ ・広島市は16でトップ。東広島市は4つで第2位なのかあ ・東広島市には大学関係者が約1万8000人いるのかあ。すごいなあ ・変だな：なんで東広島には大学が多いのかあ ・びっくり：広島市の次にたくさん大学があることにびっくりだ ・気になる：大学がなかったら、今の 	<ul style="list-style-type: none"> ・QRコードを読んで、児童の端末にアンケート画面を表示させておく ・インタビュアーのキーワードをひろいながら、板書していく ・大学には、高等教育機関として、①教育、②研究、③社会貢献の役割があること。小中高の役割は①が主になるが、大学には②③が加わる点を強調したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中継先とホストをスポットライト ・熊原先生をスポットライト。活動のようすの写真がきれいに投影されているかをチェック
<p><展開:東広島市の大学></p> <p>Q2 東広島市には、どんな大学が、どのくらいあるの？ (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① のん太クイズ (ICT) ・広島県に大学はいくつある？ ・東広島市に大学はいくつある？ ・18万人が住む東広島市に大学の学生と先生、その家族はあわせて何人くらいいるだろう？ ② みんなの「変だな？」「びっくり！」「気になる」を教えて 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでの投票を支援する ・クイズは3つある ・答え合わせと同時に、必要な情報は板書していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・Googleのクイズ画面を画面共有 ・ラスト1分のカウントダウン ・結果の共有→傾向を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ・TIが指名したクラスをスポットライト。対話できるようにする

<p>③ 課題を確認させる。</p> <p>Q3 東広島市には、どんな大学があるのだろう (15)</p> <p>① 4つの大学は東広島市のどの地区にある? 地図を読み取ろう</p> <p>② 4つの大学はいつにできた? 年表を読み取ろう</p> <p>③ 大学ができる前と後を、人口に注目して比べよう (グラフ)</p> <p>④ 大学ができる前と後を、土地に注目して比べよう (写真)</p> <p>→ 昔は田んぼだったところは、今どうなっているかな (中継)</p> <p>Q4 東広島市には、どうして大学が集まってきたのだろうか? (15)</p> <p>① 副読本 (pp.57-58) を読んで、予想してみよう</p> <p>② 予想を入力し、発表しよう</p> <p><終結:まとめ></p> <p>Q5 東広島市ってどんなまち? どうして大学が集まっているの?</p>	<p>東広島はどうなっていただろう</p> <p>【今日のめあて】:</p> <p>1 時間目: 東広島市には、どうして大学が集まってきたのだろうか?</p> <p>2 時間目: 大学は、私たちの生活と、どんな関係があるのかな?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西条に広大とエ大、高屋に近大、黒瀬に国際大があるね ・エ大は1965年、広大は1982年、近大は1991年、国際大は1998年にできたのかあ。広大が東広島に移ってきて40年過ぎたんだ ・大学ができると、だんだん人口も増えているね。何か関係があるのかな ・大学ができると、周りの田や畑だたところに、アパートやお店、カラオケ屋ができているね、町ができているね ・広島大学は元は広島市内にあったんだね。東広島市に移ると、何かいいことがあったのかな? ・東広島市は、大学を中心としたまちづくりを日指したんだね、広島大学に続いて、他の大学やしせつも集まってきたのかな <p>東広島市は、「大学」に来てもらってまちをセットで開発してきたところに特徴がある。大学を中心に、働く場所や住む場所をセットで開発してきたところに特徴がある。</p>	<p>から本時の課題を引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布する【資料1】 ・①から③は、5-6分程度かけて各学級で指導する (全体でとくに答え合わせは行わない)【資料2】 ・④は、全体で広大上空のドローン映像を見た後にワークシートを整理させる (ワークシートには1982年当時の広大周辺の航空写真を掲載しておく)【資料3】 ・キャンパスに建物が建つだけでなく、周辺の田畑が減り、そこに遊食住が完結した「学生街」が形成されていることに注目させたい ・副読本を読ませる。 ・「賀茂学園都市」を図解し、広島大学を中心とした学園都市づくりを進めてきたことを示す ・「テクノポリス」を図解し、進んだモノづくり(産)、優れた研究(学)、住みやすい場所(住)をセットで整備してきたことを示す ・予想を【共有スライド】に入力 	<ul style="list-style-type: none"> ・T1の指示に応じて、WS整理のラスト1分をカウントダウンする ・ドローンの事前録画【動画】を再生する ・学生街の熊原先生をスポットライト。【パネル1】を持参する ・副読本を画面共有 ・ギャラリービューで参加クラスを取組を俯瞰できるようにする ・共有スライドのURLを念のためチャットで送る (各教室の学生補助員と連絡を取り合う) ・T1の指示に応じて、予想入力のラスト1分をカウントダウンする
--	--	--	---

<p>【第2時】もしも大学がなかったら 前時をうけて、課題を確認する</p> <p><導入：大学生は何をしているか> Q1 大学は、あなたの生活とどんな関係にあるのかな？(15)</p> <p>① のん太アンケート (ICT) 大学は、あなたの生活と関係が ありそう？ (㉠)とつってもある-㉠ 少しある-㉡ほとんどない-㉢ま ったくない</p> <p>② みんなは大学生の生活を知っ てる？大学生のイメージは？</p> <p>③ 実際にインタビューしよう ・どこから来ましたか？どこに住 んでいますか？ ・日中は何をしていますか？ ・授業がないときは何をしていま すか？ ・アルバイト先にはどのくらいの 大学生が働いていますか？ ・どこで食事していますか？白炊 していますか</p> <p>④ 話を聞いた感想を教えて</p>	<p>【2時間目のめあて】: 大学は、私たち(小学生)の生活と、どんな関係があるのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学と(小学生の)私にどんな関係があるのかな。大学生には公ったことでもないよ ・大学があってもなくても、私(たち)のくらしには何の影響もないよ ・そういえばしらないなあ ・勉強したり、遊んでいる?? ・広島大学生は県外から来ている人が多いのか。一人暮らしのために、アパートが必要なんだ ・授業や部活の時間以外はアルバイトをしてる人が多いなあ ・レストラン・喫茶店、スーパー、塾(+工場)などは大学生が働いてくれないと、成り立たないかもね ・大学生は、東広島市で外食したり、買い物をしたりしているね。 ・もしかして、大学生がいないと、東広島のまちは成り立たないのかな ・大学があるから、東広島市にできたものもたくさんありそうだね 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでの投票を支援する ・大学生は、勉強している人、遊んでいる人、という固定観念を揺さぶりたい ・キーワードをひろいながら、板書していく ・東広島市は、購買力だけでなく、労働力の面でも大学生に依存していることに注目させたい ・東広島市には、大学生の居住施設だけでなく、商業・娯楽施設(コンビニ、スーパー、居酒屋…)が集まっていることに注目させたい ・大学(生)は、自分の生活とは関係ないという児童の固定観念を揺さぶりたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・TI が指名したクラスをスポットライト。対話できるようにする ・出身地の確認は拳手で行う。ギャラリビューで確認する ・【パネル2】を持参する ・インタビュール相手の大学生3名と草原をスポットライト ・飲食系アルバイト ・小売店系アルバイト ・教育系アルバイト ・【パネル3・4】を持参する ・TI が指名したクラスをスポットライト。対話できるようにする
---	---	---	---

<p><展開：大学と東広島市の関係> Q2 「もしも大学が東広島になかったら」…と想像してみよう (25)</p> <p>①-1 施設カードを1枚を選んで、数直線に貼り付けよう (独自カードを作ってもいいよ)</p> <p>もし東広島市に大学がなかったら「今はない」ものを左寄りへ、大学がなくても「今はある」ものを右寄りへ貼り付けよう</p> <p>①-2 なぜそう思ったのかな？理由も書き込もう</p>	<p>もし大学がなかったら、①②は絶対になかっただろう (左寄り)。なぜなら広島大学ができたから、周辺に学生が住む家や通学のための道路ができたはず。広島大学ができたから、働く人たちが住む団地や使う駅ができたんだよ</p> <p>もし大学がなかったら、③④はたぶんなかったのは (真ん中)。なぜなら広島大学ができたから、東広島がテクノポリスになって工場が集まった。工場ができて働く人が増えたから、学校やスーパーができた。大学ができたから、店で働くアルバイトも集まったよ</p> <p>もし大学がなくても、④はできただけではないかな (右寄り)。なぜなら (大学がなくても) 自然豊かな東広島には人口が集まって、お店が必要になったと思うよ</p>	<p>カードは、校区内の施設や子どもがよく知る施設を優先して選びたい (適切な施設がない場合は、教員が馴染みの施設を設定してよい)</p> <p>【資料4】</p> <p>・クラスの意見がまとまったら、学生や支援員の助けを得て、</p> <p>⑦ カードを【共有スライド】の数直線の上に貼り付ける。 (もし大学がなかったら) 絶対ない たぶんない ある</p> <p>例： </p> <p>① 理由を【共有スライド】にプロット クダアイデアグラムで説明する</p> <p>例： </p>	<p>共有スライドに誘導する URL をチャットに送る</p> <p>・ギャラリビューで全てのクラスの活動のようすを映す</p> <p><カード群></p> <ul style="list-style-type: none"> ①交通施設：東広島駅 (1988年) 西条バイパス (1993年完成)、ブルーパール (2006年完成) ②居住環境：(大学周辺の) 学生アパート (1986年)、研究施設：吉川工業団地 (1986年)、中核工業団地 (1988年)、近畿人学 (1991年)、サイエンスパーク (1992年) ③商業・文教施設：高美が丘小学校 (1992年)、フジグラン (2000年) ④T1 が指名したクラスをスボットライイト。対話できるようにする ・熊原先生をスボットライイト 	<p>・共有スライドに誘導する URL をチャットに送る</p> <p>・ギャラリビューで全てのクラスの活動のようすを映す</p> <p>・最後に、ギャラリビューで全ての接続先を映し、挨拶する</p>
<p>② 面白い図をつくったクラスに質問するよ</p> <p>③ 専門家に意見を聞いてみよう。気になる発表はありましたか？</p> <p><終結：まとめ></p> <p>Q3 東広島市と大学はどんな関係かな？「もしも (広島) 大学が東広島市になかったら…。…」に入る言葉を考えよう (5)</p>	<p>・「今の東広島市はなかったかも」</p> <p>・「人口はふえず、働くところも買物するところもなかったかも」</p> <p>東広島市は、大学を中心に、<u>学園都市として発展してきたよ。</u></p> <p>広島大学ができた→たくさん<u>の学生や先生が集まった</u>→一緒に<u>仕事をしたい</u> <u>研究所や工場、別の大学が集まり、そこにつながる道路もできた</u>→市の人口がふえて、<u>(私たちがよく使う) スーパーや学校、(住んでいる) 団地もできたよ</u></p>	<p>・各自でワークシートに記入させる</p> <p>・時間があれば、</p>	<p>・最後に、ギャラリビューで全ての接続先を映し、挨拶する</p>	

6. 授業で用いる資料一覧

- ・ワークシート
- ・カード： 裏にマグネットのついたカード10枚
- ・動画： 広大周辺と近大周辺のドローン1分動画、前者はワークシート④と同じ角度で撮影し、比較できるようにする
- ・パネル1： 下見学生街の昔の土地利用（写真）
- ・パネル2： 学生アルバイト18名の出身地（地図）
- ・パネル3： 学生アルバイトの業種（グラフ）
- ・パネル4： 3名が働いているところ（写真）
- ・共有スライド1（パワポ）： 東広島市に大学が集まってきた理由（予想） 1ページ
- ・共有スライド2（パワポ）： 「もしも大学が東広島市になかったら…」の数直線 1ページ
- ・共有スライド3（パワポ）： 理由付けのブロックダイアグラム（チャート） 参加クラス数

7. 参加校に送付する資料一覧

- ・資料1 ワークシート： A3カラー表裏
- ・資料2 大学のある場所の地図： A1カラー1枚
- ・資料3 1982年の大学周辺写真： A1カラー1枚
- ・資料4 カード： 10枚

3. 資料

※実践時の配布資料より引用、一部改変

◆板書計画

板書計画

東広島市にはどうして大学が集まっているか

東広島市の大学

- ・学生に教える+新発見する+社会に役立つ
- ・県内に21大学,市内に4か所
- ・人口18万人,学生と先生で1.8万人

名前(学生が多い順)	どこ	いつ
広島大学	西条	1986年
広島こくさい大学	黒せ	1998年
きんぎ大学	高屋	1991年
エリザベト音楽大学	西条	1965年

大学ができて,どうなった

- ・人口がふえた
- ・大学の周りで田んぼがへった
- ・アパート,コンビニができた

1982年の広島大学
周辺の航空写真

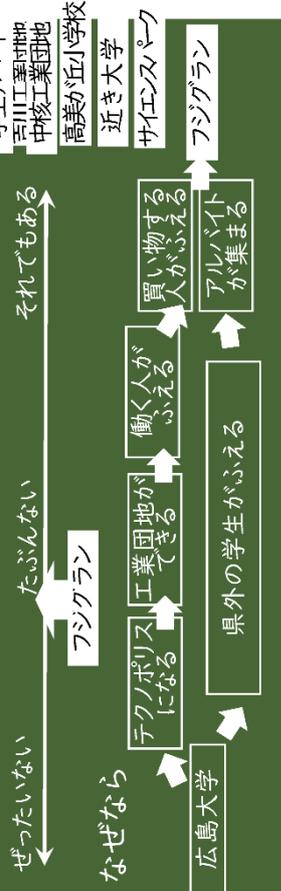
なぜ大学ができた

かも学園都市(1974) → テクノポリス(1984)



→ 広島大学をまねいて,大学中心の学園都市をつくった
学園都市に,ほかの大学が集まった

もしも(広島)大学が東広島市になかったら...



資料1: ワークシート → Google Classroomに掲載します

- ・資料2: 大学立地の地図
- ・資料3: 1982年の大学周辺写真:
- ・資料4: 10枚のカード

は,学校あてに送付します。ご活用ください。

副読本pp.57-59で教材研究ができます。
児童には,事前アンケートに取り組んだり,副読本の資料を眺めさせておくことをお勧めします。「のん太の学び場」の「大学」も参考となります。

※下部の青枠内は,教師への説明事項。

クイズと
アンケート

名前 ()

1 時間目のめあて

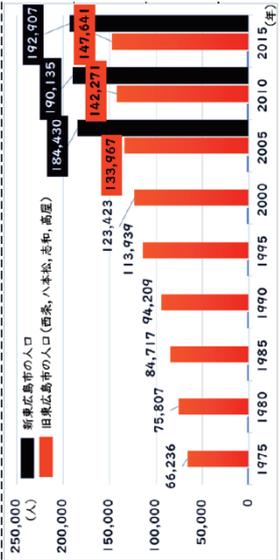
1. 大学の地図

地図を見よう

学生数

- ① 広島大学 () 町 12,000 人
- ② 広島国際(こくさい)大学 () 町 2,600 人
- ③ 近畿(きんき)大学 () 町 2,200 人
- ④ エリザベト音楽大学 () 町

3. 人口の変化



気づき

2. 大学の年表

- 1965年 () 大学ができる
- 1974年 4つの町が集まって東広島市が生まれる
- 1982年 () 大学工学部が広島市からうつる
- 1991年 () 大学工学部ができる
- 1998年 () 大学ができる

4. 大学のまわりの変化

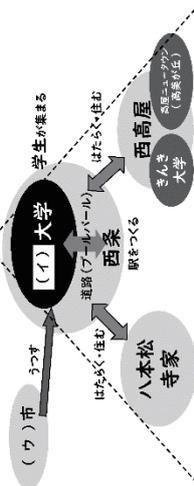


2時間目のめあて

5. 東広島市のまちづくり

① かも学園都市（1974年）

広い土地に、人間と自然が調和した「ア」をつくる
かも台地に、教育、住宅、公園などのせせつを集める



6. 大学生のイメージ

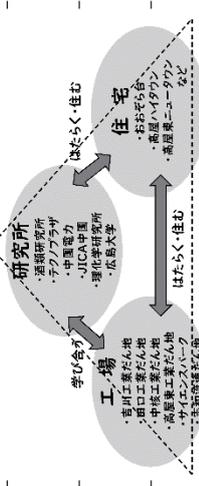
() している人

7. 大学生の生活 … インタビューのまとめ

- ① 出身 だから
- ② 授業がある日
- ③ 授業がない日

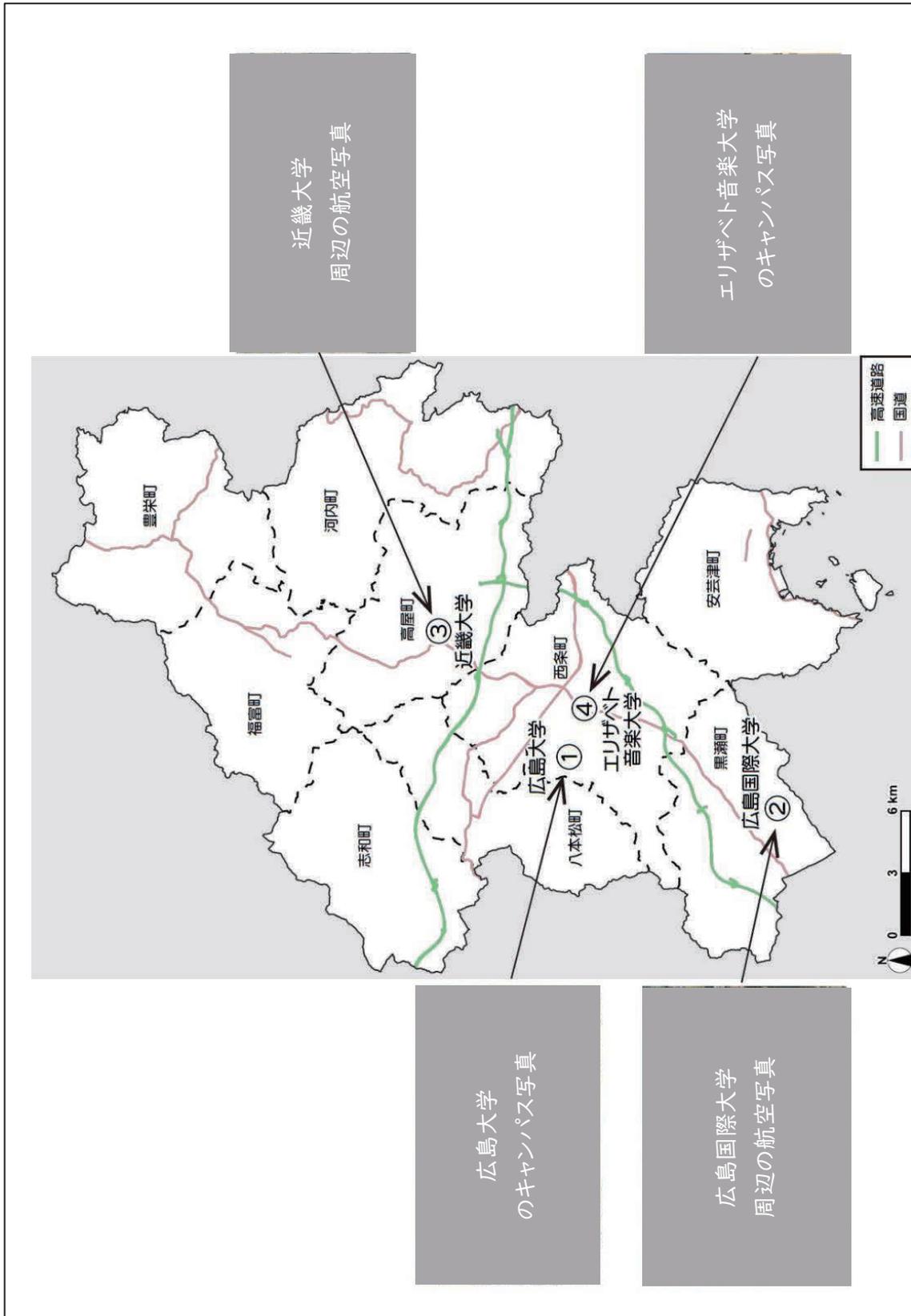
② 広島中央テクノポリス（1984年）

進んだ（ア）、すぐれた（イ）、住みやすい（ウ）を
むすびつけたまちをつくる



<まとめ> 「もしも（広島）大学が東広島市になかったら……」 つづきを書こう

◆資料



1982年の広島大学周辺の航空写真

(<https://hiro-kogyokai.com/img/kasou/enkaku/s9.jpg>
より引用)

57/10/28

東広島駅

(1988年)

関連写真

西条バイパス

(1993年完成)

関連写真

ブルーバール

(2006年完成)

関連写真

(大学周辺の)

関連写真

学生アパート

吉川工業団地

(1986年)

関連写真

中核工業団地

(1988年)

関連写真

近畿大学

(1991年)

関連写真

サイエンスパーク

(1992年)

関連写真

高美が丘小学校

(1992年)

関連写真

フジグラン

(2000年)

関連写真

4. 実施報告

※以下、文章と写真は [EVRI ウェブサイトの開催報告記事](#)より引用、一部改変。

※開催報告動画は [YouTube チャンネルにてご覧頂けます](#)。

開催報告記事はこちら 	YouTube チャンネルはこちら 
---	---

2022年2月9日、東広島市内小学校5校7学級(吉川, 高屋東, 高美が丘, 福富, 入野)の3年生(179名)が参加して、「大学と市の移り変わり」をテーマとするオンライン授業を実施しました。

1時間目の導入は、大学と小学校・中学校・高校の違いを理解することから始まりました。地理学を専門にする広島大学の熊原康博准教授に登場いただき、大学の先生の仕事について紹介をお願いしました。大学の先生は、小中高の先生のように「授業」を行うだけでなく、「大発見・新発見」をする研究やその研究でわかったことを「社会に役立てる」社会貢献も使命にされていることをお話しされました。特に「大発見・新発見」をする研究が一番大事な仕事であることを強調されました。

その後、広島県内の大学の数、東広島市内の大学の数、東広島市にある大学の先生と学生が数についてクイズを行いました。子どもたちはタブレットを使って回答しました。県内には21の大学があり、その中でも東広島市には4つの大学があること、先生と学生は約1万8千人いることがわかりました。子どもたちは、広島県内では東広島市が2番目に大学が多いこと、先生と学生だけで約1万8千人がいて、さらにその家族を含めると、もっとたくさんの大学に関係する人が暮らしていることに驚いていました。

1時間目の中心的な課題は、「東広島市には、どうして大学が集まってきたのだろう？」でした。まず、地図や年表、グラフを用いて、東広島市にある4つの大学の位置と歴史、それに伴う人口の変化を確認しました。次に、1982年の空中写真と現在のドローン映像を用いて、広島大学周辺の土地利用を空から観察し、田や畑があったところに多くの建物ができていることを確認しました。その後、大学近くの西条下見にいる熊原准教授と中継を繋ぎ、現在の広島大学周辺の様子を地上から観察しました。学生用のアパート(住む)やスーパーマーケット(買う)、ファストフード店(食べる)、カラオケ(遊ぶ)など学生生活に必要な施設が集まった学生街ができている様子を確認しました。

次に、中心課題である「東広島市には、どうして大学が集まってきたのだろう？」に取り組み

ました。これまでの観察結果と副読本を活用し、東広島市に大学が集まる理由について予想しました。「人口が増えたから」「土地が広いから」「広島市から引っ越ししてきたから」「広い土地があり、人が少なく、建物も少なく、大きな研究や設備が整えられるから」などのように、昔の写真に注目して土地の広さを理由に挙げる学級もあれば、「市の面積がふえたから。二大プロジェクトでまちづくりが進められたから」「東広島市に住んでいる人が通うところがないので大学を作った。広い土地があったから。広島県の新しい発見が多く東広島市にあったから」「二大プロジェクトがあって大学に行きたい人が増えたから」などのように、副読本を参照して「賀茂学園都市構想」と「テクノポリス構想」に関連づけて予想した学級もありました。

2時間目では、1時間目の課題の解決から始まりました。「賀茂学園都市構想」と「テクノポリス」が東広島市のまちづくりの出発点であり、大学を東広島に招き集めることで町を元気にしようとしたこと、東広島市は大学のまわりに一緒に研究したい研究所や一緒に仕事をしたい工場や大学が集まり、さらにそこで働く人のための住宅団地が集まってできた「学園都市」であることを確認しました。

2時間目の中心的な課題は「大学は、私たちの生活とどんな関係があるのかな？」でした。事前のアンケートで、子どもたちは「大学生は勉強をしている人」というイメージがあることが確認されました。次に、3人の大学生についてインタビューをして、子どものイメージを検証してきました。多くの広島大学生は県外から来ていること、授業がない日は勉強以外にも趣味やサークル、アルバイトをしていること、アルバイト先で勤務している人はほとんどが学生であり、学生がいなければお店や塾を開けることができないことがわかりました。

その後「もしも大学が東広島になかったら…」という問いについて考えました。東広島市内の10の施設が書かれたカードを選び、もしも広島大学がなかったらその施設は「絶対にない」「たぶんない」「それでもある」と記された数直線上に位置付け、広島大学がない東広島市のようすを想像しました。子どもたちは、学生アパートや高美が丘小学校は大学がなければ「なかった」と想像する一方で、フジグランや吉川工業団地は大学がなくても「あった」のではないかと想像しました。

想像をした後にブロックダイアグラムを用いて理由を説明しました。高美が丘小学校のカードを選んだ2つの学級は、「広島大学→人(学生・先生)が増えた→先生の家族→子供が増えた→高美が丘小学校」と説明したり、「広島大学→家やビルが増えた→スーパー、買う場所が増える→買う人・働く人が必要→人が集まる→高美が丘小学校」と表現したりしていました。

最後に熊原准教授が解説と学級への質問をしました。一見関係ないように見えても、このように図に表すことで、大学と東広島市の様々な施設の関係が見えてくること、どの学級もこれまでに学んだことを踏まえて考えることができている素晴らしい、とまとめられました。

2時間を通して、「大学と市の関係」を視点に、東広島市の変化と大学との切っても切れない深い関係について学び(第1時)、一見自分とは関係なさそうな大学も私たちの生活と直接的・間接的につながっていることに気づく(第2時)社会科らしい学習となりました。



吉川小学校にて授業をする様子
(草原教授)



クイズに回答する様子



回答の結果についての感想を発表する様子



ドローン映像を観察する様子



広島大学周辺からの中継の様子
(熊原准教授)



広島大学周辺を中継にて観察する様子



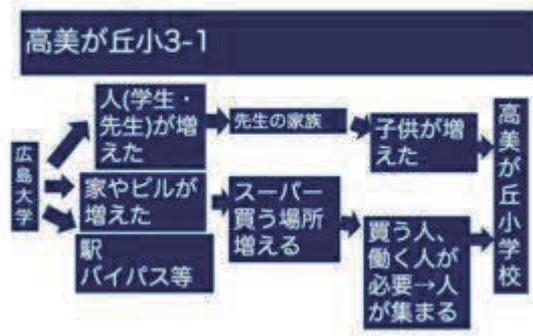
吉川小学校での授業実施の様子



施設ができた理由を発表する様子



当日の板書の様子



子どもたちが考えた施設ができた理由

5. 児童用アンケートの結果

広域交流型オンライン社会科地域学習 2022年2月期 児童用アンケートの結果（自由記述の分析）

【分析の手続き】

- 広域交流型オンライン社会科地域学習（2022年2月期実施分）に対する児童の意識を探索的に明らかにするために、アンケート問7「感想を教えてください。」への回答についてテキストマイニングによる分析を行った。
- 分析には、KH Coder (Version. 3. Beta. 03d) を用いた。
- 分析対象となる児童の記述のうち、次の語句については事前に修正を施している。①明らかに誤字・脱字として認められるものは、正しい表記に修正した。例えば、「じぎょうをうける」は「授業を受ける」に直している。②漢字・仮名交じりで表記が揺れている語句は漢字表記に統一した。例えば、「だいがく」、「大がく」は全て「大学」に直している。③同義と考えられる語句は統一した。例えば、「めっちゃ」、「とても」はともに程度が大きいことを表す副詞と解されるため、「めっちゃ」を「とても」に合わせた。④繰り返し表現は除した。例えば「とてもとても」は「とても」に修正した。⑤そのほか、一部の表現をより妥当な処理ができる形へと修正した。
- 分析の際、複合語は一語として処理した。例えば、「広島大学」は「広島」「大学」ではなく、「広島大学」として処理した。
- 以上の設定で、①抽出後リストの作成、②共起ネットワーク（＝単語が同時に出現する関係性を示したものの）の作成を実行した。

【分析に対する簡単な考察】

- 「他」の「学校」や「大学生」と「大学」を「知る」・「学ぶ」・「勉強」することが「嬉しい」・「楽しい」と感じた児童が多数であったものと考えられる（Subgraph 02）。これには、各教室から3名の大学生が授業に登場して自身のアルバイトを紹介したことが影響している可能性がある。
- また、「変化」や「関係」といった語が「分かる」に関連していることから（Subgraph 04）、児童は、大学と市の移り変わりや、両者の相互関係を一定程度認識することができているものと考えられる。一部の児童は、大学ができたことによって東広島市の「人口」や「建物」が増えたということ（Subgraph 07）を記述していた。
- 単に大学そのものに関する学びが印象に残った児童もいるものと考えられる。それは、「いつ」「東広島」に大学ができたかということ（Subgraph 05）のような事実に知識の記述に表れている。小学3年生の児童はもともと大学概念を認識していなかった可能性がある。そのような児童にとっては、大学の機能・役割や変遷、数、所在地等の情報も新たな知になりうる。「大学について初めて知った」という経験に意義を見出した児童が、Subgraph 05に見られるような感想記述を残したのかもしれない。
- なお、「賀茂学園都市構想」や「テクノポリス構想」といった本学習のキーワードは記述の中にほとんど出現しなかった。

抽出語リスト（総計上位 50 語）¹

【2 月期（大学と市の移り変わり・小学 3 年生）】

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
大学	106	学ぶ	21	たくさん	7	関係	6	詳しい	4
楽しい	73	嬉しい	19	社会	7	教える	6	想像	4
知る	52	他	18	小学校	7	行く	6	増える	4
いろいろ	33	広島大学	16	調べる	7	面白い	6	潰れる	4
分かる	30	先生	13	聞く	7	外	5	アルバイト	3
大学生	29	無い	13	いつ	6	今	5	繋がり	3
思う	27	東広島	12	びっくり	6	昔	5	計画	3
人	24	考える	11	インターネット	6	答える	5	建物	3
学校	22	勉強	10	クイズ	6	意見	4	言う	3
授業	22	町	9	一緒	6	市	4	行う	3

【1 月期（外国人市民・小学 4 年生）】

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
外国人	239	他	96	嬉しい	54	違う	30	食べる	19
人	201	暮らす	84	自分	54	オンライン	29	話す	19
外国	168	日本	83	行く	52	大学	25	英語	18
思う	163	授業	82	考える	48	一緒	23	気持ち	18
いろいろ	141	困る	73	意見	45	先生	23	案	17
楽しい	134	東広島	73	勉強	43	提案	22	出る	17
聞く	123	話	68	来る	42	言う	21	悪い	17
分かる	117	市	64	たくさん	40	教える	20	ありがとう	16
知る	114	国	58	住む	39	言葉	20	アイデア	16
学校	111	学ぶ	56	良い	37	市民	20	インターネット	16

【12 月期（駅や町の移り変わり・小学 3 年生）】

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
駅	79	学校	14	たくさん	6	少ない	4	親	3
昔	44	町	14	次	6	先生	4	人口	3
楽しい	37	オンライン	13	変化	6	大学生	4	説明	3
分かる	37	嬉しい	13	様子	6	比べる	4	前	3
今	34	授業	13	意見	5	聞く	4	全然	3
知る	27	学ぶ	10	見る	5	外	3	東広島	3
思う	18	教える	10	大学	5	学習	3	不思議	3
いろいろ	17	調べる	9	変わる	5	今日	3	理由	3
違う	16	受ける	7	勉強	5	事	3	びっくり	2
他	15	人	7	行く	4	自分	3	インターネット	2

¹ 動詞を赤色，学習内容に関連する名詞を青色で表した。

【11 月期（伝統文化・小学 4 年生）】

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
伝統	26	歌舞伎	6	たくさん	3	いつか	2	伝える	2
楽しい	20	分かる	6	オンライン	3	クイズ	2	白市	2
いろいろ	18	学ぶ	5	意見	3	一緒	2	発表	2
学校	17	授業	5	嬉しい	3	外	2	すみません	1
知る	17	神楽	5	考える	3	次	2	それぞれ	1
文化	17	自分	4	行く	3	自慢	2	な	1
思う	16	少し	4	小学校	3	色々	2	びっくり	1
他	15	調べる	4	先生	3	説明	2	インタビュー	1
地域	14	聞く	4	勉強	3	大学	2	リモート	1
人	8	ありがとう	3	本当に	3	中継	2	意味	1

【10 月期（消防署・小学 3 年生）】

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
消防署	138	他	41	調べる	20	分署	14	びっくり	9
楽しい	123	見る	38	外	19	違う	13	考える	9
知る	118	ありがとう	37	教える	19	救急車	12	次	9
いろいろ	97	分かる	35	先生	19	小学校	12	受ける	9
人	51	オンライン	34	勉強	19	消防士	12	新しい	9
消防車	49	思う	34	高屋分署	18	大学生	11	西分署	9
学ぶ	48	聞く	29	意見	15	学習	10	違い	8
授業	45	たくさん	21	一緒	15	計画書	10	時間	8
学校	42	車	21	種類	15	行く	10	コロナ	7
嬉しい	42	社会	20	大学	15	話	10	今度	7

【9 月期（災害・小学 4 年生）】

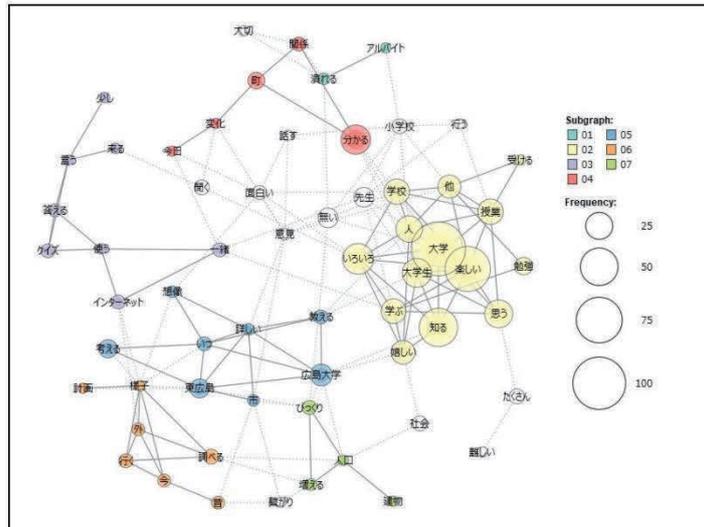
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
災害	211	危険	54	土石流	28	意見	19	実際	12
知る	146	人	49	聞く	28	話	19	小学校	12
分かる	139	見る	48	オンライン	26	嬉しい	16	昔	12
いろいろ	91	学校	46	教える	25	気	16	言う	11
思う	79	先生	45	良い	24	低い	16	専門家	11
楽しい	78	学ぶ	38	ドローン	23	勉強	16	インターネット	10
起さる	76	場所	35	大学	23	怖い	15	クイズ	10
授業	59	自分	34	調べる	22	外	14	土砂崩れ	10
地域	58	たくさん	30	行く	21	社会	14	ハザードマップ	9
他	55	浸水	28	東広島	20	危ない	13	一緒	9

【7 月期（小売店・小学 3 年生）】

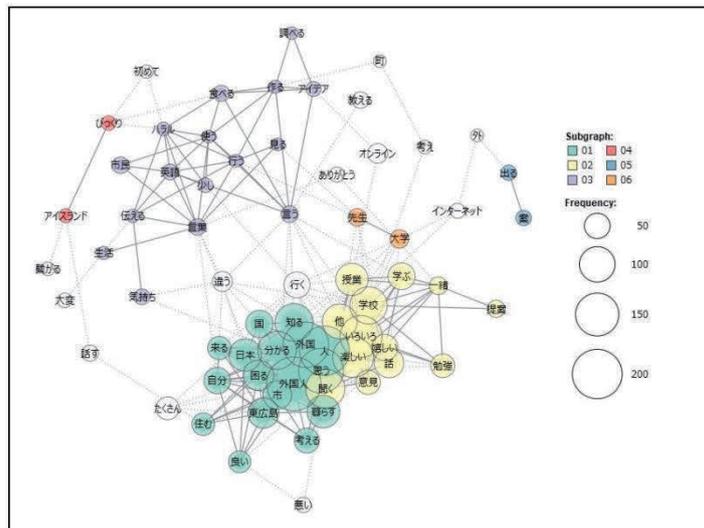
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
店	347	勉強	101	違う	57	違い	33	発表	24
いろいろ	298	嬉しい	98	次	53	意見	31	初めて	23
楽しい	285	行く	83	クイズ	47	しゃくなげ館	30	今日	22
知る	204	オンライン	82	大学	47	キャッチフレーズ	29	詳しい	21
学校	165	社会科	76	たくさん	46	受ける	28	大学生	20
人	151	スーパーマーケット	70	インターネット	46	野菜	28	友達	19
他	137	一緒	69	聞く	44	工夫	27	考える	18
授業	131	小学校	63	見る	37	種類	26	好き	17
思う	125	先生	58	学習	35	直売所	26	ショージ	16
学ぶ	107	調べる	58	教える	35	売る	26	タブレット	16

共起ネットワーク²

【2 月期（大学と市の移り変わり・小学 3 年生）】

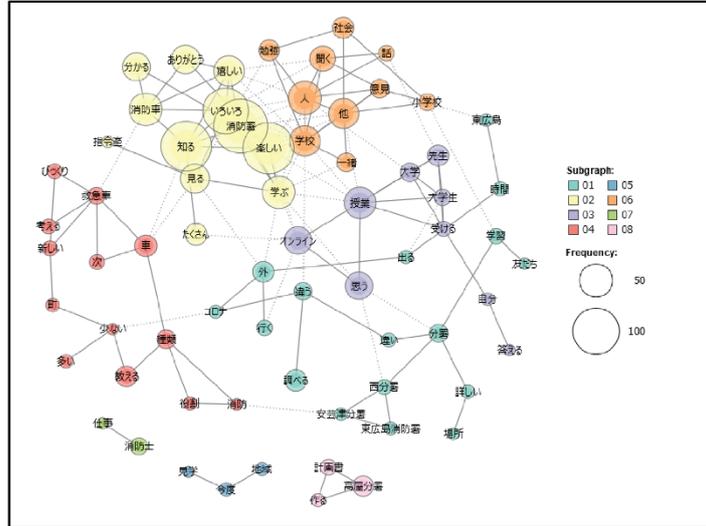


【1 月期（外国人市民・小学 4 年生）】

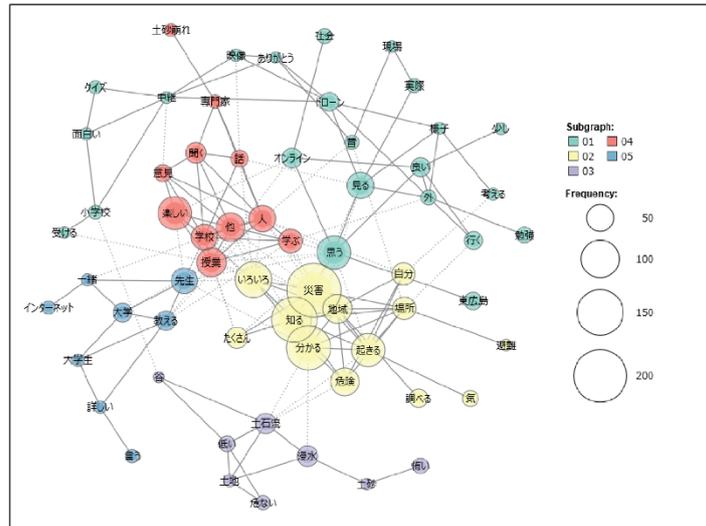


² Jaccard 係数が 0.1 以上の共起関係を示した。円の大きさは語句の出現頻度を，線は共起関係を示す。円の位置や，円間の距離に意味はない。

【10月期（消防署・小学3年生）】



【9月期（災害・小学4年生）】

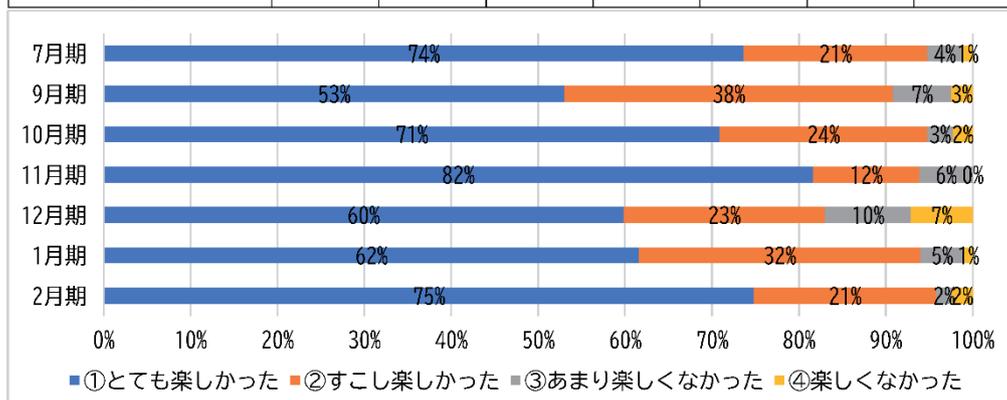


広域交流型オンライン社会科地域学習
2022年2月期 児童用アンケートの結果（量的データの単純集計）¹

全参加校の総計

問1 「〇〇〇〇」について学んだじゅぎょうは、どうでしたか。²

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期	1月期	2月期
①とても楽しかった	635	191	217	40	67	236	125
②すこし楽しかった	182	136	73	6	26	124	35
③あまり楽しくなかった	35	24	9	3	11	19	3
④楽しくなかった	10	9	7	0	8	4	4
計	862	360	306	49	112	383	167



問2 問1で①と②と答えた人に聞きます。なぜ「楽しかった」のですか。³

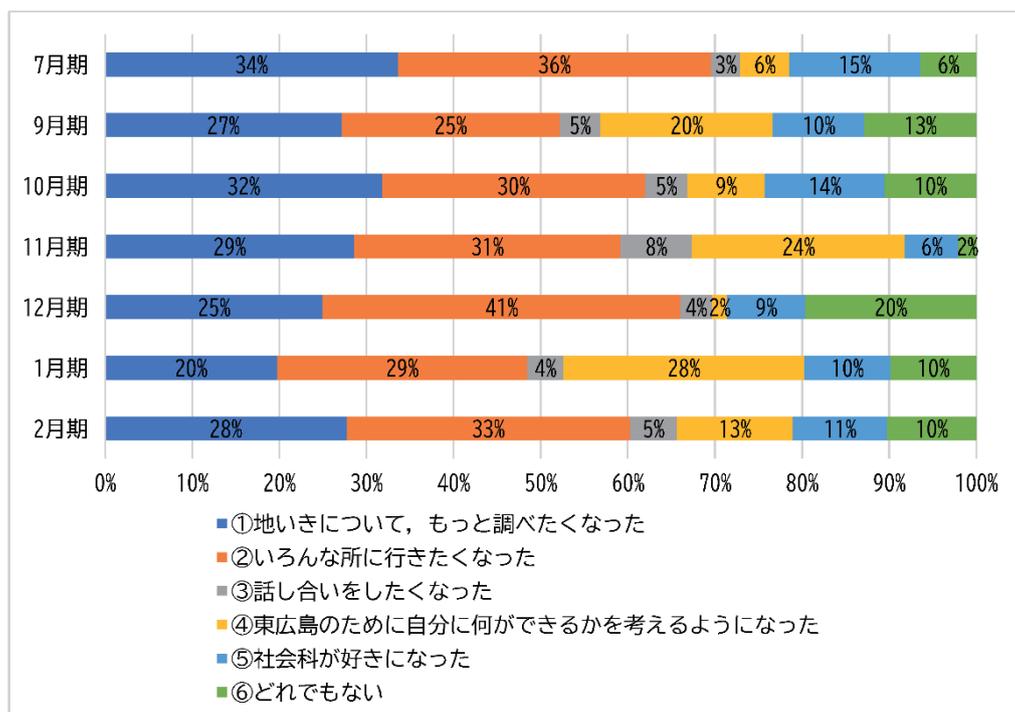
¹ 複数回答は無効回答として処理した。なお、7・10・12・2月期は小学3年生を、9・11・1月期は小学4年生を対象とした授業である。

² 7月期は「お店」、9月期は「さい害」、10月期は「消ぼうしょ」、11月期は「伝とう文化」、12月期は「駅やまちの変化」、1月期は「外国でくらすこと」、2月期は「大学とまちの変化」の授業について問うている。

³ 7月期は「①いろいろな店を知ることができたから」、「②店のちがいをキャッチフレーズに表すことができたから」、「③店の人の話を聞いたり、ようすを見たりできたから」を選択肢とした。9月期は「①いろいろなさい害を知ることができたから」、「②地いきのキケンなところを見つけることができたから」、「③さい害について、話を聞いたり、ようすを見たりできたから」を選択肢とした。10月期は「①消ぼうしょのちがいを知ることができたから」、「②高屋分しよ計画書をつくることができたから」、「③消ぼうしょの人の話を聞いたり、ようすを見たりできたから」を選択肢とした。11月期は「①いろいろな伝とう文化について知ることができたから」、「②地いきの伝とう文化の未来を予想することができたから」、「③伝とう文化を受けつぐ人の話を聞いたり、ようすを見たりできたから」を選択肢とした。12月期は「①昔や今の駅のようすについて知ることができたから」、「②私たちのまちのうつり

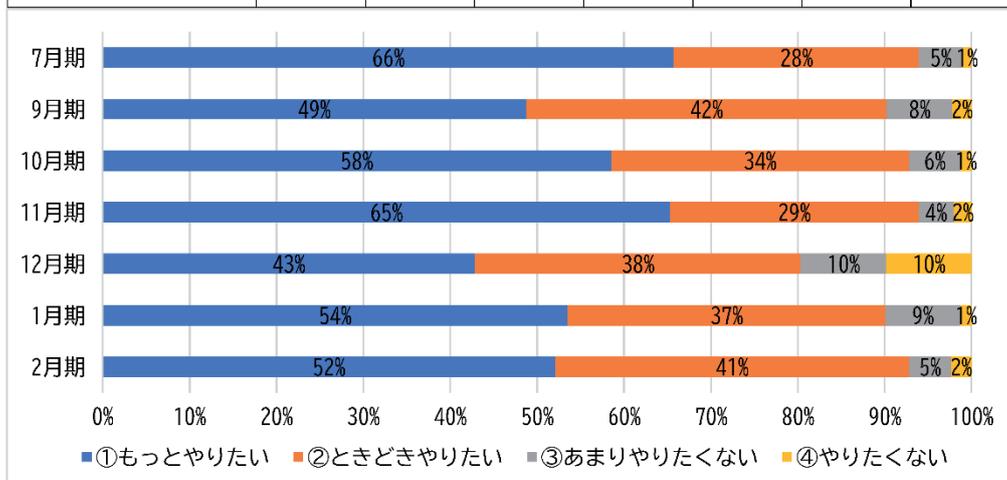
問3 じゅぎょうの後、どんなことを考えましたか。

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期	1月期	2月期
①地いきについて、もっと調べたくなった	288	93	97	14	28	72	46
②いろんな所に行きたくなった	308	86	92	15	46	105	54
③話し合いをしたくなった	29	16	15	4	4	15	9
④東広島のために自分に何が出来るかを考えるようになった	48	68	27	12	2	101	22
⑤社会科が好きになった	129	36	42	3	10	36	18
⑥どれもでない	55	44	32	1	22	36	17
計	857	343	305	49	112	365	166



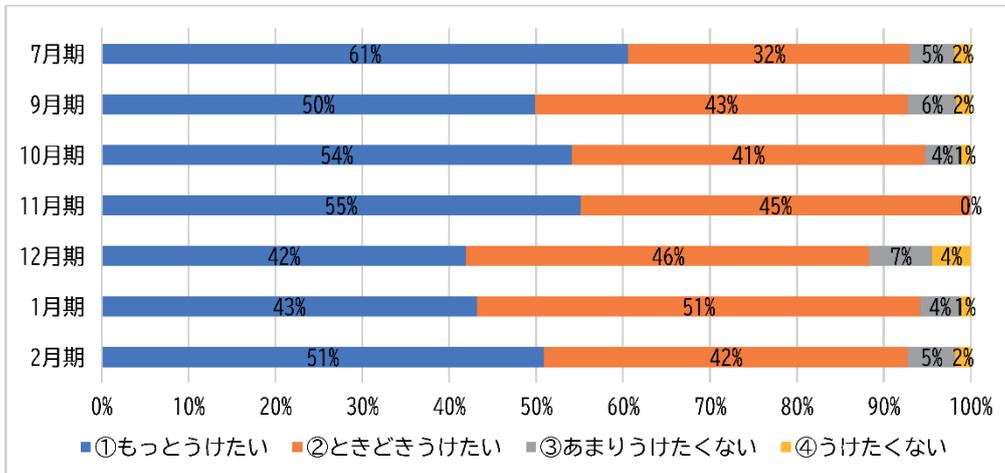
問4 ほかの学校の友だちとっしょに学ぶじゅぎょうは、どうでしたか。

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期	1月期	2月期
①もっとやりたい	566	175	179	32	48	205	87
②ときどきやりたい	243	149	105	14	42	140	68
③あまりやりたくない	43	27	18	2	11	33	8
④やりたくない	9	8	4	1	11	5	4
計	861	359	306	49	112	383	167



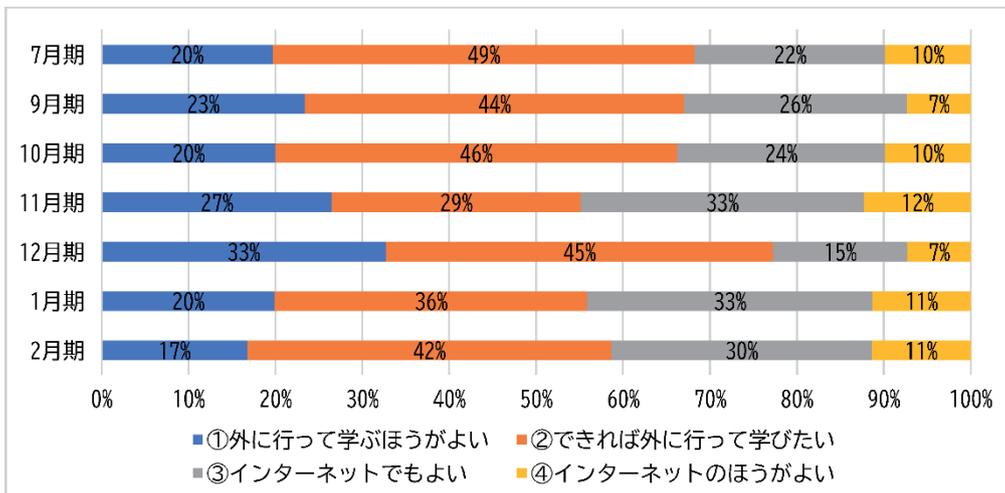
問5 大学の先生や大学生が行うじゅぎょうは、どうでしたか。

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期	1月期	2月期
①もっとうけたい	521	179	165	27	47	165	85
②ときどきうけたい	279	149	124	22	52	195	70
③あまりうけたくない	44	27	12	0	8	17	9
④うけたくない	16	8	4	0	5	5	3
計	860	363	305	49	112	382	167



問6 校外に出かけるじゅぎょうとくらべて、どうでしたか。⁴

回答の選択肢	7月期	9月期	10月期	11月期	12月期	1月期	2月期
①外に行って学ぶほうがよい	169	83	61	13	36	76	28
②できれば外に行って学びたい	416	155	141	14	49	137	70
③インターネットでもよい	188	91	73	16	17	125	50
④インターネットのほうがよい	84	26	30	6	8	43	19
計	857	355	305	49	110	381	167



⁴ 7月期は「①店に行って学ぶほうがよい」、「②できれば店に行って学びたい」を選択肢とした。

6. 担当者・協力者一覧

◆ 企画・運営機関

広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)
草原 和博 (人間社会科学研究科・教授)
宇ノ木 啓太 (教育研究推進員)
草原 聡美 (教育研究推進員)
吉田 純太郎 (教育研究推進員)
川本 吉太郎 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程後期)
玉井 慎也 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程後期)
池田 優子 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)
今井 祐介 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)
川上 由美 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)
田中 峻斗 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)
俵 龍太郎 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)
藤井 冴佳 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)
大岡 慎治 (教育学部 第二類 社会系コース)
國重 和海 (教育学部 第二類 社会系コース)
佐藤 莉沙 (教育学部 第二類 社会系コース)
正出 七瀬 (教育学部 第二類 社会系コース)
津田 晃希 (教育学部 第二類 社会系コース)
永田 誠弥 (教育学部 第二類 社会系コース)
藤原 瑞希 (教育学部 第二類 社会系コース)
森本 敬仁 (教育学部 第二類 社会系コース)
山下 光 (教育学部 第二類 社会系コース)
山下 弘洋 (教育学部 第二類 社会系コース)
八木 謙樹 (教育学部 第二類 社会系コース)

◆ 連携・実施機関

東広島市教育委員会学校教育部
教育総務課情報教育推進室
沖 秀治 (室長)
三井 成宗 (室長補佐兼係長兼指導主事)

◆ 協力者

広島大学 大学院人間社会科学研究科・准教授 熊原 康博 先生

◆ 資料作成・提供

岩佐 佳哉 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程後期, 日本学術振興会特別研究員)
16 頁(東広島市に立地する大学に関する地図)

※所属や職階は、2022年3月末日時点のものです。

EVRI 研究プロジェクト叢書 Vol.15

2021 年度東広島市広域交流型オンライン地域学習
—2022 年 2 月実践「もしも東広島に『大学』が
なかったら？」—

発行日 2022 年 9 月 30 日

編著者 草原和博・大坂遊・宇ノ木啓太・草原聡美・
吉田純太郎

編 集 広島大学教育ビジョン研究センター (EVRI)

印 刷 (株)ニシキプリント



**EDUCATIONAL
VISION
RESEARCH
INSTITUTE**